

2014/8/25 (Mon.) 第88号

日本医師連盟ニュース

日本医師連盟ニュース
 - 発行所 -
 日本医師連盟
 東京都文京区本駒込2-28-16
 〒113-8621
 TEL: 03-3947-7815
 FAX: 03-3947-2662
 E-mail: info01@nichiren.jp

http://www.nichiiren.jp/

定価 1年400円 (但し日医連負担金を含む)

日医連執行委員会開催

横倉委員長再任

日本医師連盟は、七月二十九日、日医会館において執行委員会を開催した。執行委員会では、「日医連役員等人事」、「平成二十六年交付金」について審議を行い、横倉義武日本医師連盟委員長（日医会長）の再任を決議した。役員・執行委員等の任期は二年間。



日医連委員長に選出され挨拶する横倉義武委員長

執行委員会では、はじめに日医連委員長の選出が行われた。冒頭、日医連委員長選出規程により仮議長の選出が行われ、石川育成岩手県医師連盟委員長が仮議長に選出された。

致で、横倉日医会長が日医連委員長に就任することが承認された。

横倉委員長 引き続き医政活動に全力

横倉義武委員長は、日医連委員長の承認について謝辞を述べたあと、次のように挨拶を行った。

「この二年間の政治情勢を振り返ると、民主党政権から一昨



日医連執行委員会



挨拶する羽生田俊参議院議員

「お陰さまで、当選からちょうど一年が経過いたしました。

年十二月の自公政権への政権交代があり、その間、二度の国政選挙（平成二十四年十二月衆議院総選挙・平成二十五年七月参議院選挙）への対応も行ってきた。大きな政治情勢の変化のなかで『国民医療を守っていくための陳情活動』に最大限努めてきたところである。

しかしながら、医療・介護を取り巻く環境は日々厳しさを増しつつある。

一つ目には、団塊の世代が七十五歳以上となる、二〇二五年問題。二つ目には、国の借金が一千兆円を超える財政赤字のなかで、社会保障費をどのように確保していくかという問題。この二つの問題が大きな課題であると考えている。

また、直面する課題としては、来年十月に消費税率が一〇％へ引き上げられる予定となっているなか、医療機関における控除対象外消費税問題への対応や、公的医療保険の給

付抑制につながる懸念のある、『患者申出療養』等のさまざまな保険外併用療養の拡大など課題が山積している。

このような状況下において、国民のための医療政策として、日本医師会の考える医療政策を実現するためには、日本医師連盟の活動も今まで以上に積極的に展開していかなくてはならない。

なお、常任執行委員については、日医常任理事四名のほか、全国の医師連盟のご意見を幅広く伺うために、各ブロックから一名ずつ計八名を選任いただくとともに、委員長推薦の形で若干名を指名させていただいて委嘱したいと考えている。人事案についてご議論を賜りたい」と提案した。

最後に、横倉委員長が、「次期参議院選挙（平成二十八年七月予定）における日医連の対応については、今後、八月に常任執行委員会、九月に執行委員会を開催し先生方のご意見を賜りたい。

また、若手医師連盟会員対象の『日医連医政活動研究会』を九月に開催する予定であるので、よろしくお願ひしたい」と述べ執行委員会は終了した。

らな。全国の会員の先生方のご支援をいただき、更なる活動強化に努めて参りたいと考えているので引き続きのご支援をお願いしたい（要旨）」

日医連役員等の人事を承認

続いて、日医連役員等人事について審議が行われた。

横倉委員長は「本日は、委員長のほかに副委員長三名、常任執行委員十六名、会計責任者一名、同職務代行者一名、会計監督者三名の各役員と、日医連規約第十四条に規定されている参与您のご承認について審議を賜りたい。

案は承認された。

（※「日医連役員・執行委員等」の名簿は二面に掲載）

昨年度同様の四〇%を交付

平成二十六年交付金については、今村聡副委員長が、「昨今の政治情勢等に鑑み、昨年度と同じく負担金の四〇%を都道府県医師連盟に交付することとさせていたきたい」と提案し、平成二十六年交付金については、原案とおりの可決・承認された。

次期参議院選挙対応を今後議論へ

日医連推薦参議院議員の羽生田俊議員が挨拶

日本医師連盟役員・執行委員等名簿

平成26年7月31日

委員長	横倉 義 武				
副委員長	中川 俊 男	今村 聡	松原 謙 二		
常任執行委員	深澤 雅 則	嘉数 研 二	尾崎 治 夫	太田 照 男	小林 博
	伯井 俊 明	石川 紘	福田 稠	大久保 吉 修	寺下 浩 彰
	魚谷 純	松田 峻一良	今村 定 臣	小森 貴	道永 麻 里
	金 范 敏				
会計責任者	川島 龍 一				
会計責任者職務代行者	野田 健 一				
会計監督者	有海 躬 行	鈴木 勝 彦	森下 立 昭		

執行委員	都道府県	都道府県医師連盟委員長	負担金賦課対象者数基準「規約第13条2項(2)」		
	北海道	長瀬 清	藤原 秀 俊	松家 治 道	
	青森	齊藤 勝	村上 壽 治		
	岩手	石川 育成	岩 動 孝		
	宮城	(嘉数 研 二) *1	櫻井 芳 明		
	秋田	小山田 雍	西成 忍		
	山形	中目 千 之	中條 明 夫		
	福島	高谷 雄 三	星 北 斗		
	茨城	小松 満	石渡 勇		
	栃木	(太田 照 男) *1	前原 操		
	群馬	月岡 関 夫	須藤 英 仁		
	埼玉	金井 忠 男	湯澤 俊	金沢 和 俊	
	千葉	田畑 陽一郎	土橋 正 彦	清水 正 寛	
	東京	野中 博	真鍋 勉	猪口 正 孝	近藤 太 郎
			橋本 雄 幸		野津原 崇
	神奈川	(大久保 吉 修) *1	加藤 勲	松井 住 仁	丸田 桂 子
	新潟	渡部 透	吉沢 浩 志		
	富山	馬瀬 大 助	小関 支 郎		
	石川	近藤 邦 夫	浮田 俊 彦		
	福井	大中正 光	池端 幸 彦		
	山梨	今井 立 史	刑部 利 雄		
	長野	関 隆 教	関 健		
	岐阜	(小林 博) *1	野川 秀 利		
	静岡	篠原 彰	紀平 幸 一	徳永 宏 司	
	愛知	柵木 充 明	山本 楯	市川 朝 洋	
	三重	青木 重 孝	小林 篤		
	滋賀	笠原 吉 孝	猪飼 剛		
	京都	安達 秀 樹	森 洋 一		
	大阪	(伯井 俊 明) *1	茂松 茂 人	生野 弘 道	加納 康 至
	兵庫	(川島 龍 一) *2	西田 芳 矢	足立 光 平	生方 享 司
	奈良	塩見 俊 次	大澤 英 一		
	和歌山	(寺下 浩 彰) *1	山田 和 毅		
	鳥取	(魚谷 純) *1	明穂 政 裕		
	鳥根	小村 明 弘	湯原 紀 二		
	岡山	(石川 紘) *1	松山 正 春		
	広島	平松 恵 一	檜谷 義 美	豊田 秀 三	
	山口	小田 悦 郎	河村 康 明		
	徳島	齋藤 義 郎	川島 周		
	香川	久米川 啓	小西 久 典		
	愛媛	久野 梧 郎	菅 拓 也		
	高知	岡林 弘 毅	松岡 鍊 三		
	福岡	(松田 峻一良) *1	下河邊 智 久	江頭 啓 介	北里 誠 也
	佐賀	池田 秀 夫	横須賀 巖		
	長崎	蔭本 恭	高原 晶		
	熊本	(福田 稠) *1	高橋 洋		
	大分	近藤 稔	織部 和 宏		
	宮崎	河野 雅 行	富田 雄 二		
	鹿児島	池田 琢 哉	野村 秀 洋		
	沖縄	宮城 信 雄	安里 哲 好		

参与	石井 正 三	石川 広 己	鈴木 邦 彦	笠井 英 夫	羽鳥 裕
	松本 純 一				

(注) *1は常任執行委員。*2は会計責任者。

7月4日 横倉会長 安倍総理大臣に日医役員再任挨拶



(左から) 今村聡副会長、横倉義武会長、安倍晋三内閣総理大臣、中川俊男副会長

平成二十六年七月四日、横倉義武日本医師会長は、中川俊男副会長、今村聡副会長とともに、総理大臣官邸に安倍晋三内閣総理大臣を訪ね、日本医師会役員選挙で再選された旨挨拶を行った。安倍総理からは「引き続き、頑張られますよう」と激励の言葉をいただいた。

そのなかで、横倉会長は日本医師会の三つの新たな基本方針として「一、国民と共に歩む」一、組織を強くする、二、地域医療を支える、三、将来の医療を考慮する旨を説明するとともに、保険外併用療養の問題、消費税一〇％引き上げ時の要望など、現在抱えている多くの重要問題の解決を訴えた。



厚生労働委員会での質疑 (4月8日)

さて、第百八十六回通常国会が六月二十二日に閉会をいたしました。一月二十四日の召集から百五十日間の会期でしたが、この間、厚生労働省関係の法案は、十九本の法律を一纏めにした「地域における医療及び介護の総合的な確保を推進するための関係法律の整備等に関する法律(医療・介護

の一括法)」をはじめ「難病の患者に対する医療等に関する法律」「改正医薬基盤研究所法」「改正労働安全衛生法」など九本が成立し、一本は継続審議になりました。

とくに医療・介護の一括法案審議においては、まず医療事故調査制度創設の問題を取り上げて、産婦人科の先生方が心配の医療事故の対象となる死産の定義について質し、厚生省医政局長より「人工死産は当然含まれないが、自然死産でも、妊娠中の診療・医療行為で万一それによって予期しなかったけれども残念ながら死産してしまったという場合には対象になり得る

ものもあるのではないかと。今後、死産に限らず、具体例も含めながらガイドラインのなかでしっかりと判断していただけるような形でお示しをしていきたい」との答弁を得ました。

会員の先生方には、平素より私の政治活動に対し深いご理解と温かいご支援を賜り心より感謝申し上げます。

昨年七月、先生方の絶大なご支援により国政に送り出していただきましたから早や一年が経ちました。一年生議員ではございますが、日本医師会での長い役員経験と人脈を活かし、数々の医療を取り巻く政治課題に取り組みで参りました。各政治課題の議論に際しましては、全国の医師会の先生方、医療現場の先生方より貴重なご意見ご

指導を賜り、また日本医師会からはさまざまな資料のご提供やご教示も賜りまして、国政での活動をお支えいただいておりますことに心より感謝申し上げます。この場をお借りいたしまして御礼を申し上げます。



参議院自民党政務審議会で発言 (5月21日)

また私は、自民党の部会において、過度な市場原理主義的発言に対し、その場で即座に反論し、医療現場の現状について多くの方々に理解を得られる対応を取ることが、国政の場に来たことの大きな意義があると感じております。

通常国会を終えて

国政活動のご報告

参議院議員 羽生田 俊

議員立法では、「国民が受ける医療の質の向上のための医療機器の研究開発及び普及の促進に関する法律」など所属の議員連盟を通じて成立に向けた議論で意見を述べて参りました。その他、数々の議員連盟や勉強会に所属して活動の幅を広げ、「医療基本法」や「成育基本法」など新たな議員立法の成立を目指して立ち上げ中の議員連盟では、事務局として積極的に働いております。

国会閉会後の七月中も予算委員会や厚生労働委員会などで閉会中審査が行われ、議員連盟での視察や平成二十七年予算概算要求基準の党内議論も始まりましたので、夏休みも全国国会議活動と地元行事、全国の医師会訪問で飛び回っております。

今後も、国民が安心して医療を受けることのできる環境づくりに全力で取り組んで参りますので、引き続きのご指導ご支援をよろしくお願い申し上げます。